



特定非営利活動法人

おもしろ科学たんけん工房

2009年10月1日発行

たんけん通信 第29号

この秋も イベントへの出展や 出前授業が目白押し

- ◆10月4日(日) 南区 大岡スポーツセンター
大岡地区センター、ケアプラザ
イベント名称 「南区^{なん}なんデー」
- ◆10月4日(日) 男女共同参画センター横浜
戸塚区 (通称 フォーラム)
イベント名称 「フォーラムまつり」
- ◆10月10日(土) 南区 中村地区センター他
イベント名称 「レインボーホリデー」
- ◆10月24日(土) 磯子区 杉田小学校
イベント名称 「わくわく杉田ワールド」
(事前の学習会・準備会は9月から)
- ◆10月25日(日) 青葉区 男女共同参画センター
横浜北 「アートフォーラムフェスティバル2009」
- ◆10月31日(土) 南区 永田地区センター
出前塾 「見ようさわろう音のせかい」
- ◆11月8日(日) 神奈川区 神奈川小学校
イベント名称 「友・遊街づくりフォーラム」

- ◆ 11月8日(日) 都筑区 都筑地区センター
「都筑ふれあいの丘祭り」
- ◆ 11月14日(土) 港南区 東永谷地区センター
イベント名称 地区センターまつり「ふれあいの日」
- ◆ 11月28日(土) 港南区 相武山小学校
イベント名称 「相武山 地域フェスティバル」
- ◆ 12月5日(土) 永田地区センター
出前塾 「にじいろの涙」
- ◆ 12月25日(金) 横須賀大津コミュニティセンター
出前塾 「インドア プレーン」

科学体験活動推進スタッフ養成研修

今年度第2期研修が始まります。
定員20名の募集に対し、17名の応募があり、
10月14日のオリエンテーションからスタートします

2009年度 第2期 スタッフ養成研修がスタート

横浜市教育委員会後援
(財)横浜市青少年育成協会との共催

平成21年8月9日(日)10:00~16:00 おもしろ実験ショー;科学工作など 会場:紅葉坂 県立青少年センター

昨年の20%増 1170名の入場者でにぎわいました。
おもしろ科学たんけん工房も、簡単工作
<風船ミニホバークラフト>と、3種の展示を出品し、
たくさんの親子連れのみなさんに喜ばれました。



青少年のための 科学の祭典 神奈川大会

おもしろ科学体験塾 11月～1月の予定表

この表は予定表です。お申込に当たっては、実施の約1ヶ月前に出るチラシまたはホームページの募集案内でご確認ください。

記号	実施日	曜日	時間帯	実施場所	テーマ/アイテム
SH9	11/7	土	午前	汐見台小学校	気体の力のおもしろ実験と工作
A25	11/7	土	午後	アートフォーラム	七色の炎を楽しもう
K72	11/14	土	午後	鵜沼中学校	紙コップでヘッドホンを作ろう
L47	11/14	土	午後	柏陽高校	簡単カメラと分光器を作って光の実験
KR6	11/14	土	午後	鉄小学校	インドアプレーンを作って飛ばそう
M57	11/21	土	午後	永野小学校	七色の炎を楽しもう
J62	11/21	土	午前	こども科学館	ゲジゲジUFOを作ろう
SW8	11/21	土	午後	東山田中 CH	信号機を作って電気の勉強をしよう
S86	11/28	土	午後	湘南台高校	簡単カメラと分光器を作って光の実験
T80	11/28	土	午後	フォーラム	転がれ、進め、ジェットコースター
ST10	11/28	土	午後	希望が丘小学校	にじ色の涙を作ってみよう
SW9	11/28	土	午後	東山田中 CH	ICラジオを作ってみよう
AS8	12/5	土	午後	あざみ野第一	風に向かって走る風力車を作ろう
YS10	12/5	土	午後	三保小学校	ふしぎな紙のマジックワーク
K73	12/12	土	午後	鵜沼中学校	七色の炎を楽しもう
L48	12/12	土	午後	柏陽高校	コマを作って回し比べをしよう
SG10	12/12	土	午前	杉田小学校	マクスウェルのコマを作ろう
SW10	12/12	土	午後	東山田中 CH	磁石と電気のふしぎ/モーターを作る
M58	12/19	土	午後	永野小学校	ソーラーカーを作ってみよう
J63	12/19	土	午前	こども科学館	簡単カメラと分光器を作って光の実験
S87	12/26	土	午後	湘南台高校	七色の炎を楽しもう
T81	12/26	土	午後	フォーラム	信号機を作って電気の勉強をしよう
K74	1/9	土	午後	鵜沼中学校	静電気のふしぎ実験
L49	1/9	土	午後	柏陽高校	たまごを科学しよう
M59	1/16	土	午後	永野小学校	転がれ、進め、ジェットコースター
J64	1/16	土	午前	こども科学館	コマを作って回し比べをしよう
A26	1/16	土	午後	アートフォーラム	ソーラーカーを作ってみよう
S88	1/23	土	午後	湘南台高校	竹とんぼ作りでナイフのつかい方
T82	1/23	土	午後	フォーラム	ソーラーカーを作ってみよう
SH10	1/23	土	午前	汐見台小学校	天秤(てんびん)ばかり
ST11	1/23	土	午後	希望が丘小学校	静電気のふしぎ実験

おもしろ科学たんけん工房 藤沢地区グループ便り No. 10



写真3



写真2



写真1

トピックス:藤沢市の公民館5館の依頼に応えた出前教室大繁盛
7-8月、藤沢市内の公民館から夏休み子ども向け行事を是非との依頼があり、次の様な出前教室を開催、工房会員は毎週のように汗をかきかき大活躍でした。六会公民館の[六会ワクワク探検隊]では「磁石と電気の力を使い、モーター作り」(写真3)を、湘南台公民館の[夏休みこども教室]では「セミの羽化」観察と「ヘリコプター作ってみよう」という工作教室(写真2)を実施。辻堂公民館の[夏休みこども公民館]では「にじ色の涙を作ってみよう」という題の化学実験を、明治公民館の[夏休み子どもの集い]では「信号機を作り電気の流れるしくみ知る」工作教室(写真1)を実施しました。

たんけん塾:昨年スタートした日本大学湘南キャンパスでの「セミの羽化観察」は、今年は大学当局のご好意で博物館見学も併せて出来ることになり8月7日に実施、参加児童26名同伴保護者20名の他、工房スタッフや博物館長など日大関係者も加わり総勢64名となり大盛況でした(写真4)。また8月5日には市内新林公園で「セミの抜け殻調査」を、この他鵜沼と湘南台会場では6月に「恐竜ノッシー」と「モーター」を、7月には「水をきれいに」と「太陽熱風車」を実施しました。



写真4

特別教室:

前号で紹介した「飛行機教室」で製作した模型飛行機の滞空時間を競う、「記録会」を7月12日に辻堂海浜公園で実施、また7月23日には同公園で本番に相当する市内中学校科学部顧問会主催の「飛行体大会」が開催されましたが、工房の飛行機教室のスタッフが、壊れた飛行機の修理や飛びすぎて行方不明になった飛行機の回収や技術的講評などの支援をしました。

大人が好きなことを夢中でやっていたら、子どもも真似して作ってみたいくなる
——そんなテーマを開発しよう——

取材と記事制作: 藤沢地区グループ: 郷、品田

横浜東地区グループ便り

夏休み野外体験塾 『セミの抜け殻調査』実施！



横浜西地区と東地区は共同で『セミの抜け殻調査』を8/8(土)に舞岡公園で行ないました。

開催に当たっては、昨年夏の公園下見会から準備は始まりました。藤沢地区でセミの先生としても活躍されている小原勉さんに主任をお願いし、かつての、セミ少年、昆虫大好き少女、都会育ちでセミなんて見たこともないけど自然大好き人間たちが集結、コース案や採集や整理の方法などを検討してきました。



採集観察中に壊れやすい抜け殻を止めておくためのプチシート製採集棒、下敷き型抜け殻識別シート、透明抜け殻標本箱などなど工夫もいっぱい、準備万端です。

当日は、3年生も保護者同伴を条件に参加、6年生まで28人と

保護者13人が9:30に集合。小原主任手作りの大きなセミの触角見本を使って抜け殻からセミの種類を見分ける方法など説明後、三班に分かれて出発。アブラ、ミンミン、ニイニイ、ツクツク法師などの抜け殻がいっぱい集まりました。

木陰で昼食をとり、午後のご厚意で借用した近くの老人憩いの家へ移動。自分に不足する抜け殻はみんなと交換して、立派な『セミの抜け殻標本箱』を完成させました。

さらにセミの羽化や生態のビデオを見たり、観察で気付いた疑問の質問などを通して、みんな最後はセミに対する興味がグーンと深まりました。よって、全員に『セミのぬけがら鑑定士認定証』を授与し、解散しました。

今回の経験で自然や昆虫に興味を感じた子どもも大勢いたようです。観察をしていくにつれ、不思議なことにいっぱい気がつきます。この経験がいろいろなことに繋がってゆくことを願っています。(土屋昌信記)



2年越しの栽培テストと準備で 素晴らしい「藍のなま葉染め」



「藍のなま葉染め」を9/5(土)、柏陽高校で行いました。当日の参加者は12人で、4年生7人、5年生4人、6年生1人で男女半々でした。はじめに、藍はアカマンマ(イヌタデ)の仲間、遠い昔から糸、布を染めることのできる植物として使われてきたことを学んだあと、「なま葉の叩き染め」をしました。金槌で葉を叩き、形を布に写し取りました。数枚の葉とサイン入りの素晴らしい「なま葉の叩き染め」ができあがりしました。水洗いで



葉緑体を除くのは家に帰ってからすることになりました。

テストピース用の染め液はスタッフがミキサーで作り、各テーブルに配られました。実験は染め2分間、

3分間、4分間の重ね染をしました。1回の染めごとに空気であて(酸化)、水洗をして染め時間毎にサンプルを作成しました。青色に染まり、染め時間が長いと濃くなり、絹布が早く、濃く染まり、ナイロンレース、羊毛糸、ポリエステルレースの順でした。木綿はうすい、くすんだ色になり、アクリル糸は染まりませんでした。テストピースは各自で台紙に固定し染め見本ができました。絹のハンカチの染めは絹のテストピースの結果から、自分の好みの濃さになる時間を決め、新しく配られた染め液を使って染めました。染め上がった絹のハンカチはどれも澄み切った夏の青空のような素晴らしい出来栄でした。

叩き染めのときの葉はスタッフにより台紙に糊付けされ、葉として各自に渡されました。家に帰ってから3点を眺めた時、「藍のなま葉染め」の不思議さと面白さが実感できたのではないかと思います。

今回の科学塾ができたのは多くの方々の協力の賜物です。昨年の春からの栽培経験、今年は播種からの栽培と一段と高いハードルを越すことができました。(山本浩記)



ふるさとをたずねて

宮内 玲子



島根県?、鳥取県とどちらかわからない! 等どうも覚えにくいとされる県。その県の中央部を山側に入ったところに、2年前世界遺産に登録されたふるさと「石見銀山」があります。

16世紀ごろより世界の銀の3分の1を占める産出地として唯一、ヨーロッパに知られ、また江戸初期より特に自然環境を壊さないよう、自然と共存した鉱山運営を心がけたこと、今も静かに生活の一部として保存してきている町並み等が評価されたようです。

「石見銀山」といえば時代劇の好きな方は、暗殺等に使われた毒物名としてきかれたことがあるかと思いますが。しかし実は他の鉱山の毒物に全国区のネーミングである「石見銀山」が使われたといわれています。

この鉱山では「灰吹き法」という朝鮮より伝わった技法が日本で初めて使われ、灰の中で鉱物を溶かし、鉱物の溶ける温度差によって灰の中に銀が残り、飛躍的に増産されたと云われます。こういう技法を見るにつれ、改良を重ねながら伝えられていったのでしょうか、本当にいつも誰が初め考え出したのだろうと、感心してしまいます。

たんけん工房の中でも、一つ作品を出されても次にはまたより良い物を作ろうと工夫されています。これからの子供達も物作り、また考えるという楽しい作業を身につけてくれればうれしいですね。

最後に歴史にも興味のある方、是非ゆっくりと石見銀山を訪ねてみてください。





横浜北地区グループ便り



横浜北は工房の中で、一番新しいグループです。活動地域は横浜北部全域にわたっており、相鉄線、横浜線、田園都市線、市営地下鉄の4本の鉄道の中心にある緑区市民活動支援センターを活動の拠点として、工房の若手？会員が頑張っています。この地区は科学体験塾の対象となる生徒・児童数が多く、科学体験塾を開催するのに最適な地域です。どうか経験の豊富な会員の方々の多い他地区の皆さまの絶大なるご支援をお願いします。(石井)

田園都市線沿線

横浜線と接続する長津田駅からたまプラーザ駅までの青葉区が主な活動の場です。

市立小学校が30校のうち、20校あまりにチラシを配布しています。会場は北地区発祥のあざみ野の男女共同参画センター横浜北(以下アートフォーラム:A系)、榎が丘小学校/あざみ野第一小学校(AS系)、出前教室として中里地区児童を対象とする鉄小・くろがね倶楽部(KR系)の4会場、今年度は13回の科学体験塾を開催予定です。アートフォーラムとは、ここ3年来「市民・NPOが作る男女共同参画事業」を実施、「理科好きの女子児童育成」「地域全体に科学体験塾を広める」活動をしてきており、この成果が北地区全体に波及しつつあります。(石井)

横浜線沿線

昨年開通100周年を迎えた横浜線

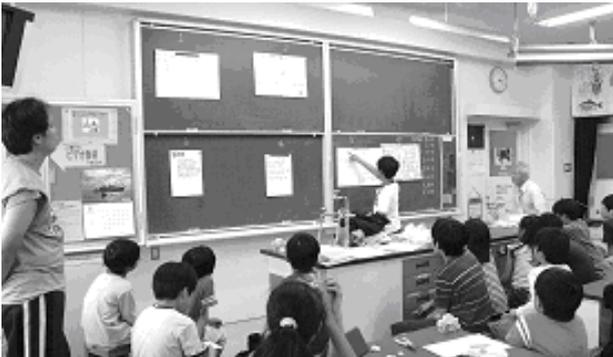
は、JR東神奈川～八王子間です。科学塾の会場は、横浜市緑区の中山駅(JR・地下鉄)を中心に森の台小学校コミュニティハウス、三保小学校の2会場です。5月「ジェットコースター」(写真)、7月「マクスウェルのコマ」、更に若葉台地区センターで2回の出前塾も開催しました。10月17日には「かっこいいモーターを作ろう!」森の台コミ、12月5日、「紙マジック」三保小を予定しています。また、地域の秋のイベントにも参加します。子どもたちとスタッフにとって、楽しい科学塾でありたいと思います。(浅井)



地下鉄沿線

市営地下鉄が縦横に走る都筑区を中心

に港北区と鶴見区が活動の場です。北地区で最も後発の弱みを強みに変えようと、新しい形の科学塾に挑戦しています。6月は上寺尾小コミュニティハウスの「レモン電池」と「燃料電池自動車資料館見学会」を2連続講座として行いました。また、都筑区の小学校実験クラブの支援(写真)も3回行いました。秋以降もこの活動は続けていく予定です。また、東山田中コミュニティハウスでも、電気系統『信号機、ICラジオ、モーター』の3連続講座を計画中です。来期も科学体験塾の更なる充実と、新企画の定着を図りたいと考えます。(古村)



相鉄沿線

横浜駅から、保土ヶ谷・旭・瀬谷・泉

の各区を縦断して海老名・藤沢両市に達する相鉄線沿線を冠にする相鉄グループですが、現在の活動は旭区です。H19年11月に、希望ヶ丘小学校の協力で活動開始し、区内27校中16校に募集チラシを配付しています。これまで、9回開催に延べ260名の応募と順調に認知度が上がってきました。今年度前半は旭区市民活動支援センター「みなくる」の適性を確認するため、5月ICラジオ、7月テクテクザウルスを開催しました。どちらも応募が45名を超える大盛況で、30名でした。次年度から希望ヶ丘、みなくる両会場を交互に利用して開催回数を増やしたいと考えています。(鈴木)

今年5月「おもしろ科学たんけん工房」の総会で、15人の理事が選任されました。今号と次号の2回にわたって、理事の皆さんの、自己紹介=プロフィールを紹介します。

アンケート項目は右ページに記載したとおりで、必ずしも全問回答を強制しませんでした。

原則として入会登録年月順に掲載しますが、紙面の都合で順序が変わる場合もあります。ご了承ください。

相川正光 さん

2002/04/01 入会



A1: 1933年 鎌倉市生まれ、小3で現住の藤沢市に移りました。生粋の湘南ボーイ?です。

旧制中学から高校までの6年間、部活で物理部に所属し、鉄道模型、ラジオ、オーディオなど、もの作りや実験を楽しみながら、電気・電子系の実用的な技術を覚えました。

この部活の経験が、たんけん工房の活動の原点になっています。

1958年に電機メーカーに入り、テレビの技術系業務を軸に、種々の業務を幅広く担当しました。

A2: 2001年春 安田代表から声をかけられて、たんけん工房設立の準備に参画しました。前述の部活の経験を活かして活動できそうであり、社会貢献もできると思ったからです。

この活動はメンバーの個性ややる気を活かすことが大切です。それを踏まえ、地域毎に自立して運営していけるような体制と仕組みづくりを進めたいと思います。

A3: 「資本主義はなぜ自壊したのか」 中谷 巖 著
グローバル資本主義を信じ、構造改革の急先鋒であった著者が記した懺悔の書です。

所得格差の拡大、地方経済の惨状、モラル崩壊など、日本の美点である「平等、安心、安全」を損なうという副作用を目にして、市場原理主義への不信感を募らせた著者は、ついに転向を決意します。

資本主義に対する疑問と批判、日本再生への提言を、自からの体験や考え方の道筋を示しながらまとめています。

A4: 趣味は園芸とローカル線の旅。現在 前者は手抜き中、後者は休止中。他にやっていることはウォーキング。

会社のリタイヤ仲間のサークルで、独自開拓の県内のコースを1回平均14キロ。6年間で85回になります。私の参加率は6割位。県内には立派な公園がたくさんあり、横浜は意外と丘陵が多いことを実感しました。

A5: 科学博物館に類するところや、青少年のための科学の祭典に類する催しに行ってみる。

新しい知識を得ることが出来る、展示や演示の工夫、新しい着眼点の発見、解説の仕方やその工夫など、私たちの活動に役立つ情報がたくさんあります。

理事のプロフィール

郷 勝哉 さん

2002/04/01 入会



A1: 藤沢市在住、1930年東京生、父の転勤で東京市(当時)内のあちこち他、→山形→逗子→大阪→逗子→藤澤→伊勢原と転々、同じ学校へ戻った事も含め中学(旧制5年)卒業までに5回転校を経験したが、育ちは神奈川県と云えよう。都の西北の大学を経て戦前外資が創設した家電メーカーに就職、ラジオ、テレビ、オーディオなどの機器設計、品質管理、研究所サポート、外国特許/翻訳業務などに従事、1968-77の約10年米国現地法人勤務

A2: 2001年夏、日頃子ども達の理科離れが気になっている所へ相川さんより工房設立計画の話があり、少年時代の理科工作の楽しかった経験から何か出来そうだと参加。以来8年経ったが、この頃は「小学生時代に折角理科に興味を持った子ども達も、中学、高校に進むにつれいろいろな原因から興味を失う例も多い」と知り、既に「中学生のための飛行機教室」も実施しているが、他に何か出来ることは無いかなど考え初めた。

A3: イザヤ・ペンダサン(山本七平)著「日本人とユダヤ人」。日本人の行動様式(発想の仕方や価値観)と西欧人のそれとの違いを、農耕民族と狩猟民族の違いに結びつけた(批判も浴びている)日本人論。「チームワークが得意」、「横並びして安心」、「自分と違うものには不安で足を引っ張る」など思い当たる指摘も多く説得力がある。

A4: 国際プロオーディオ技術者団体会員、趣味:音楽(クラシック、ジャズ、フォーク/民族音楽)、宇宙/天文、木工、アマ無線、オーディオ、飛行機、スキー/旅行と風景写真撮影、電子工作、修理や改造(車、家、パソコン、家電品等)、読書(科学技術、紀行文、比較文化、比較宗教)

A5: テレビやインターネットなど、今は知識だけなら手軽に手に入る時代だ。しかし知っただけでは解った事にならず応用も利かない。物に触ってみる、分解してみる、組立てみる、どうなっているのか考える。そうすれば仕組みが解ったり、もっと調べたくもなる。それが科学する心だ。

A6: 最近老人性難聴で、子ども達や皆さんの言葉が聞き取れず聞き返す事が多くなりました。簡易型補聴器も使っていますがやや効果がある程度で、会議で離れた席の方の発言が聞取れないこともよくあり、失礼しています。

(大事な事は議事録で確認する様にしていますが)

第 6 面～8 面には、理事のプロフィールを紹介しております。(今号は 名を掲載しました。)

- Q1 生まれたところ今住んでいるところとごく簡単な略歴。
 Q2 たんけん工房に参加するようになったいきさつと動機
 これからやりたいことなど。
 Q3 読んだ本、観た映画、視聴した TV 番組などで特に印象
 に残ったもの、人に薦めたいもの、その理由など。
 Q4 趣味や他に活動していることがあればご紹介ください。
 Q5 子どもたちの保護者、または、工房のスタッフにぜひ勧
 めたいこと。また勧めたいのはなぜですか？
 Q6 その他、自己紹介として 付け加えたいこと

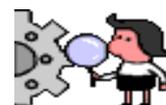
柴田 憲男さん

2002/04/01 入会



- A1: 愛知県の山奥で生まれ、5歳の時に電気が来た。そのときの電気の明るさはランプの比ではなかった。中学生の兄が電気の本を買ってきたので自分も読んで、電気に興味を持ち隣近所のラジオも修理するようになった。殆ど店がない田舎なので、欲しい物は自分で作った。小学校3年くらいからわら草履を作り、5年生から家族の下駄も作るようになった。この時ノギリやカンナ・ノミなどの使い方を覚えた。そして最大の収穫は、物を作る楽しさを知った事だと思う。
- A2: 定年退職する前から、近所の人を集めてこのような活動をしようと考えていた。子供には科学や工作を、大人には電気や機械などを、特に電気は有効でかつ安全に使うと欲していた。知人から誘いを受けたとき、その場ですぐに参加を決めました。
- A4: 電気→オーディオ→音楽→合唱 と関心事が広がって今は和音がなぜ和音になるのかを調べています。その他、スキーやテニスを楽しんでいます。
- A5: 家庭には素晴らしい教材がいっぱいあります。それは粗大ゴミと呼ばれる物で、掃除機、ドライヤー、ラジカセ、電気ストーブ、などです。そのまま捨てるのは大変もったいない物で、是非分解して中がどうなっているかを調べてから廃棄しましょう。全ての製品の中には、設計者、製造者の哲学がぎっしり詰まっているので、それを是非感じ取って欲しいものです。
- A6: 考える事が好きなので、会社では170件ほどの特許を出願して、登録されたのはたぶん70件くらいでした。その中で価値あるものは15件ほど、非常に役立ったものはわずから件くらいしかありません。その他はいわば全て駄作です。つまり素晴らしい考えを生むためには、その何倍もの事を考える必要があります。日頃から沢山の事を自分で考える習慣を身につけて、価値ある人生を送って欲しいと思います。

安田 光一さん



2002/04/01 入会

- A1: 現在は羽田空港になっている場所で生まれ、その後多摩川沿いの「鶉の木」(大田区)というところに数年住んだ後、父の療養のため藤沢市へ転居。結婚するまでは、そこで母子5人で暮らしていました。父は、私が小学5年生の秋に4人の子どもを残して他界しました。結婚して一時東京に住みましたが、その後横浜に移ってもう40年近くなります。
- 昭和 33 年経済学部経済学科卒、最初の仕事は経理。後に製造部門を希望して、資材調達関係に従事したときに、多くの部品製造メーカーの現場を見る機会があったことが、今に生きています。
- A2: 定年退職後、何をしようかと考えていたころ、川崎市のはずれの「黒川」で、東海大学名誉教授の橋本静代先生が始められていた「発見工房クリエイト」の「おもしろ科学実験教室」に出会い、これは、自分のライフワークにしても良いと感じて、しばらくお手伝いした後、自分の住まいの横浜市と第2のふるさとである藤沢市で、この事業を立ち上げました。
- 日本は科学技術立国と言われながら、1980年代以降 理科離れ、科学離れが心配される状況になり、何とかして「創造的で、理科大好きな」子どもを育てるような、場を作りたいという願いが、私を動かしました。
- A3: 「水はなんにも知らないよ」左巻健男著。
 ディスカバー携書
 私たちの周りには「科学」の装いをした、「ニセ科学」が、いっぱいあります。その中でも「水」にまつわる、「ニセ科学の商売」を取り上げ批判しているのが本書です。科学知識が低レベルなのに「科学」という言葉には弱い多くの人が、ダメされ続けています。「健康」や「美容」への人々の欲求に付け込んで、「科学」的？に見える表現を使って、ダメす「水商売」は繰り返して現れています。本書は必読の書だと思います。
- A4: 囲碁もゴルフも下手の横好きでしたが、今はほとんどやっている時間がありません。
- A5: ひとりひとりが「自分自身のおもしろ科学たんけん工房」を立ち上げてほしいと願っています。そうなれば、ひとりではできないと知り、一人はみんなのために、みんなは一人のために・・・という心で協力しあえるようになると思います。
- A6: 老後は、夫婦で海外旅行などと考えて、7年前に数人の仲間と、同好者の団体「ロングステイ横浜」を立ち上げたのですが、私は「おもしろ科学たんけん工房」に掛かりきり、家内は100歳を超える母親の介護に掛かりきりで、未だに夢は果たせずにいます。私自身、腰痛、糖尿病、高血圧を何とかコントロールしながら・・・という健康状態なので、海外旅行どころではなくなっているのですが、夢はまだ捨てられません。

第6面～第8面には、理事のプロフィールを紹介しております。(今号は6名を掲載しました。)

宮治 資雄さん

2002/04/20 入会



A1: 1933年藤沢市に生まれ、藤沢育ち、現在も藤沢市に住み生粋の藤沢っ子。1956年、大学(経済学部)卒業後、銀行に34年間勤務、1990年銀行退職し、ベンチャーキャピタル会社に勤務しベンチャー企業・中小企業の育成支援に従事、2000年6月に退職。その後数社の中小企業に会計指導、経営相談をしている。但し最近はたんけん工房の仕事が忙しく、中小企業の仕事はしていない。

A2: 高校の同期生である安田さん、相川さんよりたんけん工房の話聞き、その趣旨に賛同、特に会計担当者が居ないと事だったので、法人運営における管理会計部門の重要性を経験上理解していたので、理科関係には全くオンチな私でもその面からお役に立てるかなと思入会した。

寄る年波には勝てず新しい事に取り組む意欲は最早なく、現状のままたんけん工房の仕事のみにしたい。

A3: 最近の本もあまり読んでいない。テレビのクイズ番組をよくみている。忘れていた知識を思い起こさせてくれ、たまには、そうだったのかと教えてくれる事があり、オレより無知な者が居る事がわかりホットし、なにより多少なりとも脳の活性化、ボケ防止に役立つであろう手軽な方法である事を期待して。

A4: 15年程前から山野草(特にエビネ)と花木の鉢栽培を始め現在約50鉢程を育てている。

今年失敗すれば、来年こそと期待し、旨くゆけば来年もと熱をいれ、来年が待ち遠しく、1年が長く感じられるので。

A5: 山本五十六(知らない人が多いかな?)の言葉に「やって見せ、言って聞かせてさせてみせ、誉めてやらねば人は動かす」と言うのがある。企業の管理者研修でよく引用される言葉だが、家庭も含め子供たちと何らかの形で接する立場の人にはそれなりに解釈することにより、参考となる言葉だと思う。

成績(結果)にのみ関心を持つのではなく、教育(過程)にも関心を持ってほしい。

A6: 大学でヨーロッパ経済史のゼミを専攻し、その時「歴史は現在と過去の対話であり社会科学の中枢である」と教えられ、以後歴史には大変興味を抱いてきた。

そんな事情で、理科離れもさることながら、最近歴史離れ、歴史軽視の風潮が見られることが気になる。

歴史とは単なる暗記物ではなく、「なぜ」「どうして」と言う視点から捉える科学として重要視してほしい。

次号掲載予定: 土屋昌信、宮下盛汪、植木俊二、小林 忠
石井正司、古村哲夫、鈴木健夫、斉藤光紀、沼田くに子、

Q1 生まれたところ今住んでいるところとごく簡単な略歴。
Q2 たんけん工房に参加するようになったいきさつと動機
これからやりたいことなど。

Q3 読んだ本、観た映画、視聴したTV番組などで特に印象に残ったもの、人に薦めたいもの、その理由など。

Q4 趣味や他に活動していることがあればご紹介ください。

Q5 子どもたちの保護者、または、工房のスタッフにぜひ勧めたいこと。また勧めたいのはなぜですか?

Q6 その他、自己紹介として 付け加えたいこと。

石橋 輝夫さん

2002/07/27 入会



A1: 1938年湘南茅ヶ崎生まれ、終戦前後の1年半の山形県への疎開を除き茅ヶ崎に居住。湘南ボーイと気取っていたが、すっかり湘南おじいちゃんに。

大学では電気を学んだが、土木関係機械の設計会社に就職、その後化学会社に転職、設備関係等を担当した。

A2: 定年退職後、“何かをしたい”と思っていたとき、高校のクラブの大先輩 郷、相川両氏に誘われて入会。

先輩方には多大なご迷惑をおかけしながらも、たんけん工房の高邁な目標の達成にお役に立てればと浅学非才を恥じず身を置いている。

A3: 信心心など微塵もない環境に育つも、ある時高名のお坊さんに出遭ってから仏教=東洋思想の素晴らしさを感じ、雑誌「大法輪」を購読している。

A4: 独ミュンヘン大学の故フィッシャー教授が提唱した労使共同のパートナーシャフト経営理念を追求する日本パートナーシャフト協会会員。たんけん工房の運営にもこの理念が一部にでも資することが出来ればと考えている。

ボケ防止のために漢字クロスワード、数独を楽しむ。

最近はめっきりチャンスを失ったが、砂浜からの投げ釣りも好きだ。

A5: 子ども達の半数以上が、ちゃんとした鉛筆の持ち方をしていない。また、美しいはずの日本語をキチンと話さない。理科や算数の前に先ずこれらを正すためのお手本になってもらいたい。

A6: 会員の皆様の中には“ボランティアなんだから……”

と仰る方がおられるが、会員となった以上は組織の一員だという認識を持って行動していただきたい。それがたんけん工房の礎と将来を堅固にする鍵だと思う。自分は常にそう考えているつもりだが、気になったことはどんどん指摘していただきたいと思っている。